

伝統的な暮らしの縮図

過酷な気象条件に耐えられるづくり

慶良間諸島の古い家屋は、最も強い台風をも耐え抜くという一つの重要な目的をもって建てられました。耐風能力を最大化するために用いられた建築技術の組み合わせは、高良家の家屋にも見られます。まず、慶良間諸島の家屋は厚さ数フィートのサンゴ石灰岩でできた高い塀で守られていました。ここでは、塀に積まれたサンゴのブロックは、完全に隙間なく組み合わせられるように成形されています。これは、単に荒けずりのサンゴの塊を積み上げるという一般的な方法よりもはるかに高価な技術です。（これらの塀には、自然の防風林として機能するフクギの木が並べて植えられていることがあります。）次に、慶良間では住宅区画を地上から数フィート下に掘り、家屋をこの低いところに建設することで風が当たるのを避けていました。さらに、屋根は巨大で重いつくりで、家屋を地面に押し付けていました。高良家の屋根は四層でできています。竹の木摺（ラス）、次に土、そして重い赤瓦が積まれており、その上に石灰のしっくいがつり塗り、全体を固定しています。四辺はすべて同じ長さで、角度のゆるい屋根がついています。このような作りを持つ慶良間諸島の家屋の屋根は、日本の他の地域で見られる入母屋造の屋根（前面と背面に二つの大きな傾斜した屋根があり、側面にやや小さい屋根がある）よりもはるかに合理化された形状をしています。

日光や雨に強い

しゃがんで高良家の正面玄関のすぐ左にある縁側の下を覗いてみると、家の反対側まで真っ直ぐに見通すことができます。この空間は、台風やスコールの後に家がよく乾くように、空気の循環を促すためにつくられています。

（また、砂の地面も大量の雨水を吸収するのに役立ちます。）家の軒は雨と太陽を避けるために深くつくりられています。軒は非常に硬いマキの木でできた細い柱で支えられています。非常に貴重な資源だったこの木を用いて柱全体を交換するのを避けるため、高良家の柱は部分的に補修されています。

風水と仏壇

高良家の家屋は暖かい夏の風をとりこむため、南に面しています。入り口に置かれたヒンプンと呼ばれる巨大な独立した壁は、家族のプライバシーを保護すると同時に悪霊を追い払うという二重の役割を果たします。男性は通常、ヒンプンの右側から家に入って家の正式な「表」に行き、女性と使用人は家の裏に続いている左側から入ります。

高良家の間取りを理解するために、膝を胸につけて横向きに寝ている人の姿と家とを重ねて想像してください。頭は家の入り口、腹は家の真ん中、尻は家の裏です。部屋はこの並びに従います。大事なお客さんは玄関から入り、表に近い部屋でもてなされます。仏壇は家の中心である腹にあります。一方、あらゆる種類の不浄な活動が行われる場所、例えば台所、お手洗い、豚小屋は、先ほどの人の背中と足の部位にあたる、家の後ろ側に位置しています。

高良家では、仏壇にマキの木がつかわれています。慶良間の家では仏壇が何より重要です。純粋な実用性という点では、仏壇は家全体を支える重要な構造的役割を果たします。また、仏壇は亡くなった家族の魂が祀られている、家の比喩的な心臓でもあります。

慶良間諸島を見てまわる際、崩れ落ちたサンゴの塀に囲まれた空き地に見える区画を見かけたら、もう一度よく見てみましょう（もちろん、区画に立ち入ったり写真をとってはいけません）。多くの場合、中央に小さな小屋の

ような建物があります。この控えめな外観の建物には、以前その場所に立っていた家の仏壇が入っており、この建物は存命の子孫によって手厚く世話されています。

火の神を喜ばせる

法律により、慶良間の古い家は間取りが決められていました。玄関に入って最初の部屋である一番座は、客を迎えるとともに両親が過ごす場所でした。二番座は女性と子どもたちの部屋で、三番座は祖父母のための部屋でした。家の左奥のスペースは裏座と呼ばれ、物置として使用されていました。年配の人がいろいろの近くで生活していたのは偶然ではありません。バナナの繊維で織られた沖縄の伝統的な衣服は綿や羊毛ほど温かくなかったため、高齢者は寒い時期に熱源が必要でした。「神の石」と呼ばれる石は、いろいろの隅に置かれました。火は暖かい（良い）けれど同時に破壊的（悪い）でもあるため、火の神（沖縄語でヒヌカン）の怒りに触れないようにするのは理にかなうことであり、石は神を懐柔するための一種の供物でした。台所では、調理する場所の石のブロックには火を「防ぐ」ために水の表意文字が刻まれています。今日でも、沖縄の多くの家庭では台所でヒヌカンに一杯の水を捧げます。なぜなら、ヒヌカンは火だけではなくあらゆる災害から家族を守り、また健康を与えてくれていると考えられているからです。

命の輪

高良家のすぐ裏には、離れ家が並んでいます。左側にある二つの石の囲いは豚小屋ですが、別の機能も備えています。各小屋の前壁から突き出している、しゃがむのにちょうど良い高さの石の水路は、屋外のトイレです。家の住人は、豚小屋に向けて直接排泄しました。その大便是豚たちによって食べられ、そしてその豚たちは住人たちに食べられました。（豚はサゴヤシなど他のものも食べました。）